

商業・福祉・市民の団体が連携し小規模複合施設を設置。市街地活性化を目的とした「福祉のまちづくり」を目指す！

## 社会福祉法人<sup>ま</sup>地域<sup>ち</sup>でくらす会

(東倉吉町商店街振興組合)

機関名	社会福祉法人 <sup>ま</sup> 地域 <sup>ち</sup> でくらす会		
所在地	鳥取県米子市東倉吉町 57 地域交流センター		
電話番号	0 8 5 9 - 3 7 - 6 6 1 1		
地域概要	(1)管内人口 141 千人	(2)管内商店街数 7 商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 2 商店街	(2)会員数 36 商店	
	(3)空店舗率 42%	(4)大型店空き店舗数 0 店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. <u>地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成 15 年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（高齢者等交流施設）

- ・ものづくり工房、文化教室等を行う高齢者交流施設の整備
- ・高齢者デイサービス、障がい者のための仕事場喫茶を併設した複合コミュニティ施設

総事業費

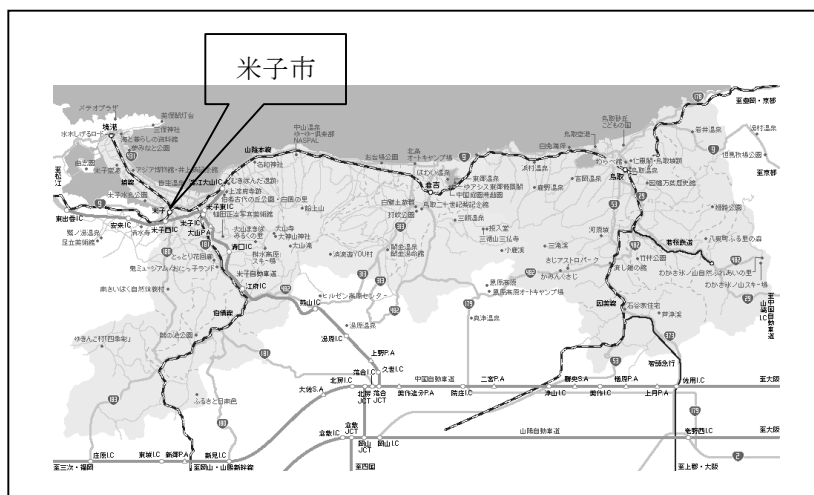
9,771 千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

米子市は、鳥取県の最西端に位置し、島根県に隣接している。市域面積は 106.41k m<sup>2</sup>、東に国立公園大山の山裾と、南部に標高 100 メートル程度の山が点在しているほかは、全て傾斜の少ない平坦な地形となっている。

大型店の郊外出店等が相次ぎ、米子市中心市街地は高齢者と疲弊した商店街が取り残され、商業の衰退に拍車を



米子市の位置（鳥取県 HP より）

かけている。具体的には、中心市街地地域の東倉吉町商店街振興組合は会員数 18、空き店舗 7、西倉吉町商店会は会員数 18、空き店舗 8 と厳しい状況にある。そして、米子市の 65 歳

以上人口の割合は 19.7%であるが、早くから高齢化が進んだ中心市街地においては、東倉吉町は同 43.3%、西倉吉町は同 30.6%と極めて高い高齢化率となっている。

## 2. 事業内容

### (1) 実施体制

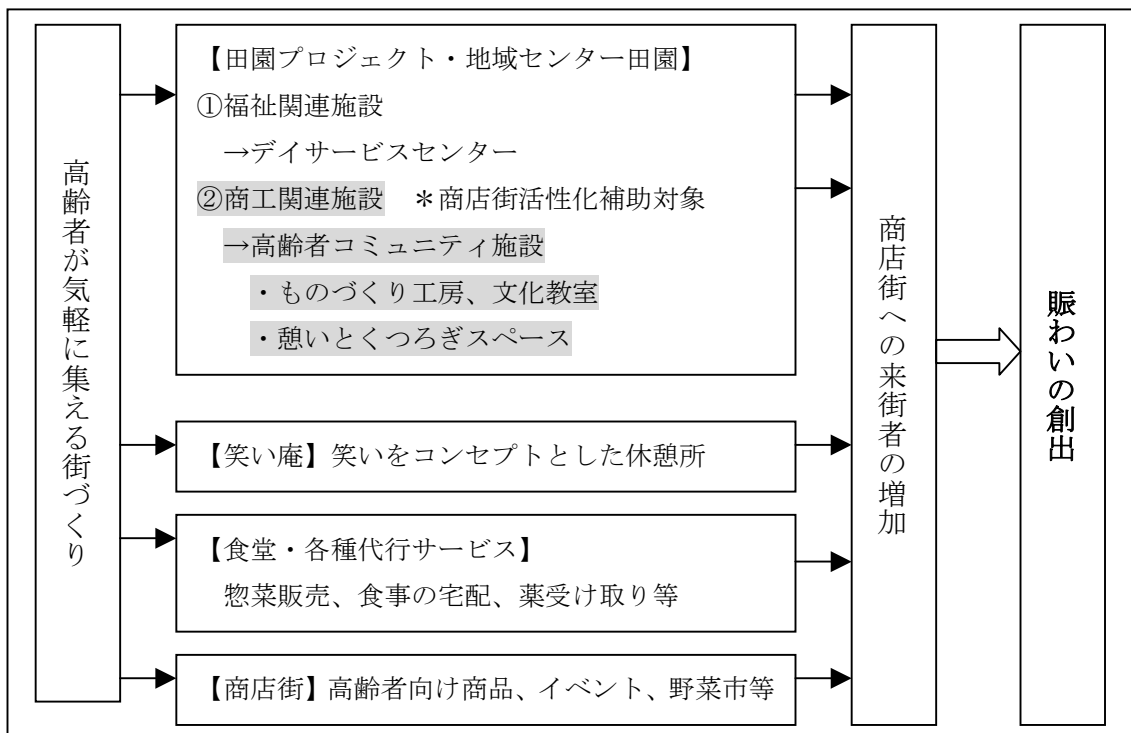
今回の高齢者等交流施設事業は「いきいき“まちくら”ネットワーク」が中心となって実施された。「いきいき“まちくら”ネットワーク」は、「笑い通り協議会」（中心商店街の東倉吉町商店街振興組合と西倉吉町商店会の有志の商店主がまちおこしを目的に平成 11 年に組織した任意団体）と「社会福祉法人地域でくらす会」（地域にセーフティネットを作り、高齢者・障がい者・子供たちが安心して暮らせる地域づくりを目指す福祉団体で、平成 13 年米子市に設立。）が 2 本柱となって、市民団体の「呆け老人を抱える家族の会鳥取県支部」「高次脳機能障害者家族会」「地域を見つめ直す懇談会」の 5 団体で構成している地域づくりのネットワークである。

### (2) 事業概要

#### ① 田園プロジェクト

平成 14 年 6 月に「いきいき“まちくら”ネットワーク」が、「田園プロジェクト」を立ち上げ、調査検討が進められてきた。「田園プロジェクト」とは、東倉吉町商店街内の空き店舗の 1 つで、かつてはお見合いやデートに使われた米子の華やかなスポットであった旧喫茶店「田園」を改修し、デイサービスセンターと地域の高齢者や家族などの他、来街者が交流できる小規模多機能型の施設を設置するプロジェクトである。

「高齢者が気軽に集える街づくり」を核として“商業”と“福祉”が融合し、様々なサービスや施設の提供をすることで、商店街への来街者が増加し、最終的には賑わいが創出されることを目指す。



## ②地域交流センター「田園」

木造2階建て延べ約185㎡の旧喫茶「田園」を改装し、2階部分に平成15年度のコミュニティ施設活用商店街活性化事業としての「高齢者コミュニティ施設」が平成16年3月10日にオープンした。平日の9時～17時に開設されている。

「高齢者コミュニティ施設」は、「呆け老人をかかえる家族の会鳥取県支部」が行う、介護・認知症・介護保険など高齢者の生活に関わる相談ができる「相談コーナー」と、趣味の教室・ものづくり等を楽しめる高齢者の「憩いの場」がある。絵手紙教室や趣味のパソコン教室、太極拳、折り紙教室などが開催された。

また、1階部分には要介護高齢者に対応する認知症対応型小規模デイサービスセンターと、障がいのある人の仕事場喫茶が平成16年4月に開業した。

改装費用は1階・2階合わせて約2,900万円で、国・県・市の補助金に加えて、市民から約870万円の寄付金を集めて費用に充てた。

## 【 効 果 】

### 1. 来街者の行動

空き店舗が介護保険施設及び地域交流センターとして生まれ変わったことにより、毎日50～100人の施設利用者が来街し、商店街に活気が生まれた。

### 2. 商店街の認知度

田園プロジェクトは単なる施設建設ではなく、地域で高齢者も障がい者も子供も安心して暮らせる仕組みづくりの拠点として位置づけ、その施設は小規模多機能施設となっている。こうした取り組みが県内外より注目され、商店街の認知度が高まり、視察・研修なども多くなっている。

### 3. 地域住民の活気

高齢化が進む中心市街地の住民に「田園」が受け入れられ、地域で安心して暮らせる拠り所が、商店街内にできたことから地域住民に元気が出てきた。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

### 1. 事業の実施期間・実施時期

中心市街地の活性化を目的とした「福祉のまちづくり」を目指して、福祉施設、商業施設及びコミュニティ施設の機能を持った複合施設であったため、複数の補助金活用が必要となり、事務処理に時間がかかり開所が遅れた。

### 2. 事業費の確保

高齢者コミュニティ施設は建物2階に開設したが、エレベーターの設置費用は補助対象外であるため断念する等の事業費圧縮を図った。それでもなお、不足する部分に関しては市民へ寄付を呼びかけて867万円を集めるといった活動にかなりのエネルギーを要した。

### 【事業の実施ポイント】

田園プロジェクトは、笑い通り協議会（東倉吉町・西倉吉町商店街）の代表と、社会福祉法人地域でくらす会の理事長、そして「呆け老人を抱える家族の会鳥取県支部」代表世話人の3者の出会いにより動き出したプロジェクトである。こうした地域に根ざした活動をしてきたジャンルの異なる複数のメンバーが団結したことが、田園プロジェクトを推進させたといえる。

加えて、実際の事業実施には行政を巻き込み、より幅広い市民運動として取り組むために、地域のニーズ調査、コンセプトづくりが必要である。

### 【関連URL】

地域でくらす会「まちくら」HP <http://www.machikura.net/index.html>